たいけん！
なぶんけんノート

はじめに

奈良文化財研究所では、
お盆や正月の休み、雨の日を除き、
一年中発掘調査が続けられています。
夏の炎天下だって関係ありません。

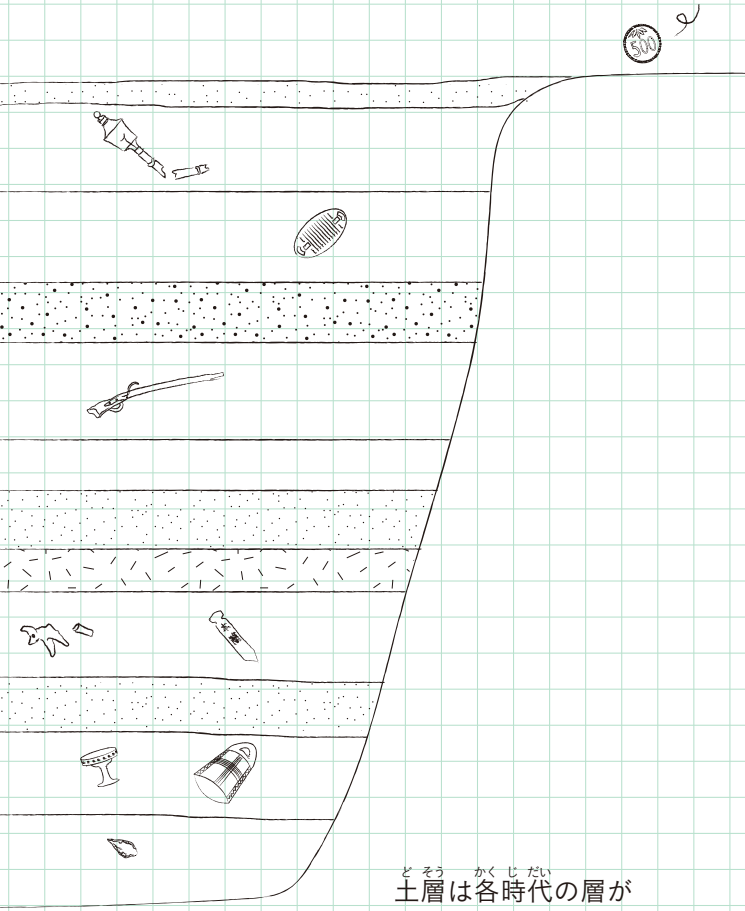
発掘調査はどのように行われているのか？
見つかったモノの整理作業は？
見つかったモノや遺構を、
研究員達はどのように見て
どのように考えているのか？

考古学というと難しく感じてしまいますが、
考え方の基本を知ってしまえば、
楽しいものです。

さあ、考古学の世界に
足を踏み入れてみましょう。

層序

考古学は、
発掘で遺跡から見つかった建物などの跡（遺構）、
そこから出てきたモノ（遺物）などを研究して、
むかしの人々の生活などを復元する学問です。

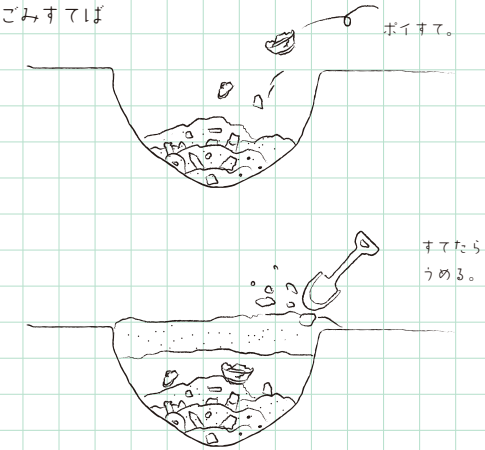


土層は各時代の層が
積み重なって形成されます。
ですから、
基本的に下にいくほど
時代が古くなります。

遺構

地面を掘り下げていくと、
なにやら周りと違う土の部分が見えてきます。

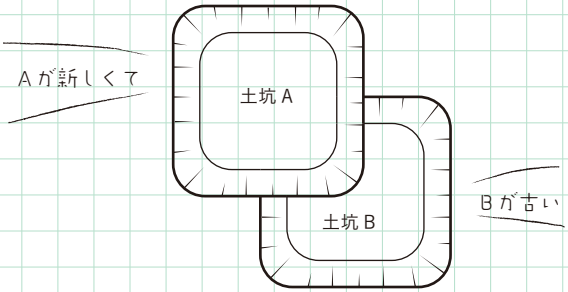
このうち、
人が掘った穴や溝の跡などを、
遺構と呼びます。



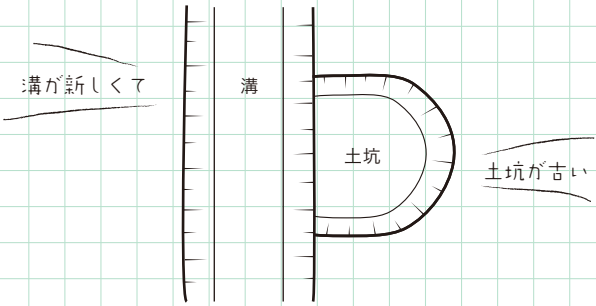
それぞれの遺構を発掘すれば、
その遺構が何なのかを示す特徴や、
いつごろのものなのかを示す遺物を
みつけることができます。

遺構の重なり

時に、いくつもの遺構が重なって
発見されることがあります。
これは、違う時期の遺構が重なっているのです。



土坑Bを壊して、土坑Aが掘られた場合



土坑が埋まった後に溝が掘られた場合

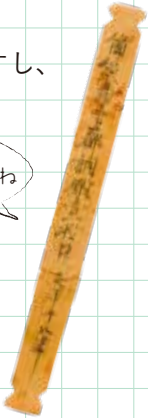
いくつかの遺構が重なっているときは、
どの遺構が他の遺構を壊しているかを観察し、
遺構がつくられた順番を調べます。

層と年代特定

土層や遺構の新しい・古いは
土層の重なりや遺構の重なり方から
知ることができます。

そして、
それぞれの層や遺構の年代を知るには
そこから出てきた遺物がとても大切です。

木簡には作られた年が
書かれていることがありますし、



いつ送った荷物か
分かるようにしないとね

瓦や土器は、時期によって
形や文様が少しずつ違います。

流行り廃りがあるんだねえ

形や文様から時代を知るには、
これまでの瓦や土器の研究の
積み重ねがものをいいます。

さあ、発掘です！

でも、すぐには掘れません……
まずは発掘する範囲を決めましょう。
さらにその範囲内に、遺構や遺物の位置を
記録するための細かな地区を設定します。

さて、掘り下げる作業です。
まずは遺構を確認する面まで
掘り下げてしまいましょう。

遺構を傷つけないように、
ていねいに

遺構がみつかったら
作業は慎重に。
遺構同士の重なりや
埋まっていった様子
を観察し、図や写真
で記録しながら掘り
進めます。

出土場所が分からなく
ならないように、注意

遺物が出てきたら、出土した
場所や深さ、どの土に含まれ
ていたかを観察・記録して、
研究室に持って帰ります。

遺構を全部出し切ったら、掘る作業はおしまい。
発掘した範囲全体の写真を撮影して、
今度は遺構の図を描いていきましょう。

基準点をもとに、糸を使って調査区のなかに
マス目状のラインを引いていきます。

ものさしなどで測りながら、遺構の
カタチなどを 1/20 や 1/10 で
方眼紙に描いて
いきます。

遺構図は上からも、横からも描きます。

遺構ひとつひとつの写真も撮影していきます。
発掘作業を終えた調査区はキレイに埋め戻して、
これで現場での作業は終了です！

整理作業

発掘とともに、見つかった遺物を整理するのが、
考古学のたいせつな仕事です。

①きれいに洗う

まずは遺物をきれいに洗わないと。
どんな小さな遺物も見逃しません。

遺物に書き込めないときは、タグをつけるよ

②記録を書き込む

遺物の裏面など目立たない場所に、遺跡名、
番号、見つかった日などを書きこみます。

書き込まないといけない情報はもりだくさん！

③台帳をつくる

遺物１点１点を把握できるよう、遺物の種類、遺跡名、
番号、見つかった日などを記録したカードを作ります。

④遺物をつなぎあわせる

発掘で見つかる遺物は、ふつう、壊れてばらばらの破片です。根気強くつなぎ合わせてもとの形を復元します。

⑤遺物の観察と実測図を描く

遺物の大きさ・形だけでなく、遺物の表面の模様やキズ痕なども逃さず観察し、実測図を作ります。

どんな小さな情報も逃さないように

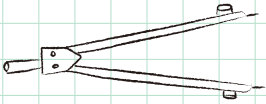
⑥写真撮影

光の強さや角度を調節しながら、隅々まではっきりと映った写真をとっていきます。

研究所内に写真スタジオがあるよ

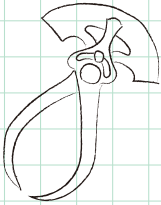
実測図の作成

実測図とは、遺物の情報を詰めこんだ解説図です。
解説図ですから、遺物の大きさやゆがみ、
厚さ、作り方を示す痕まで
正確に記録しなければなりません。
そこで活躍するのが色々な実測道具です。



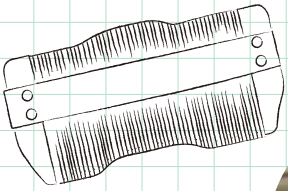
ディバイダー

モノの長さ・幅などを
図面に再現します



キャリパー

モノの厚さをはかります



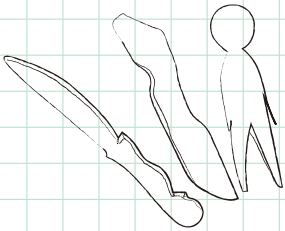
真弧

遺物に押し当てて
輪郭を写し取ります

実測(じっそく)してみよう！

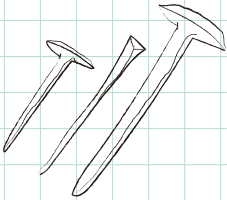
木製品のカタチと痕跡

古代には、色々なものの形をかたどった
木製品があります。

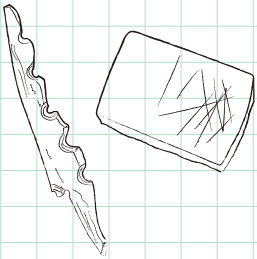


たとえばおまつりの
ための人形や馬形、
刀形……

鉄製品の見本として
つくられた様など



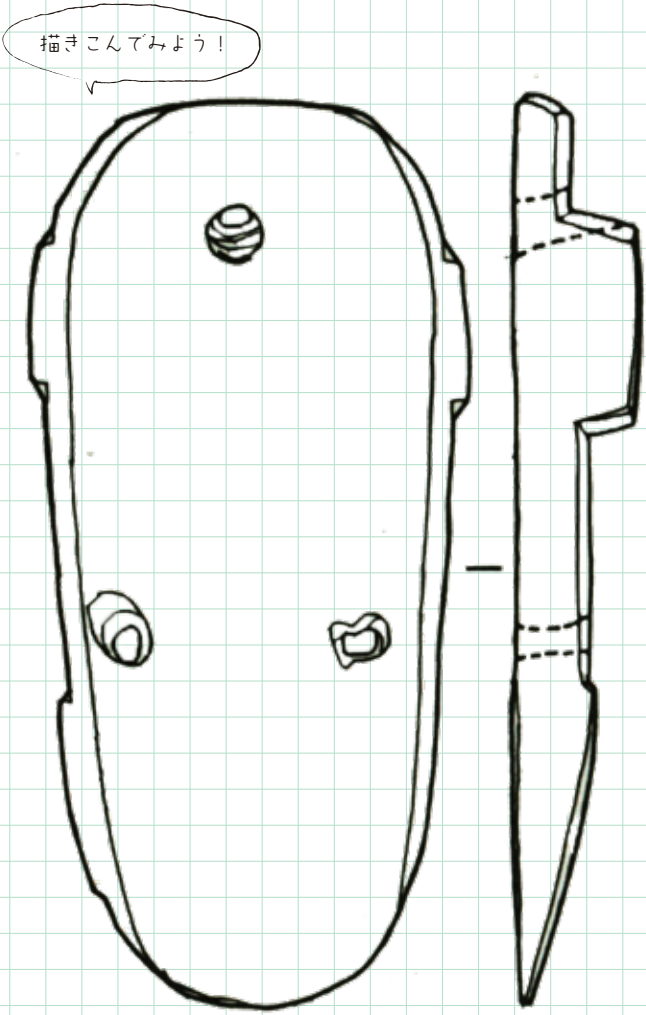
一見しただけでは実用品かそうでないか、
区別のつかない木製品は、たくさんあります。
そこで注目するのは、
道具として使いこまれた痕です。



焦げた痕の残る火鑽臼
（火を起こす道具）や、
包丁の刃の痕が残るまな板、
などなど

さて、今回みつかったものには、
どんな使いこまれた痕が残っているかな？

小判型の板には3か所に穴があけられ、
裏面には底が高くなっている部分が。
これは下駄と考えられますが、
さて、使いこまれた痕は見つかるかな？

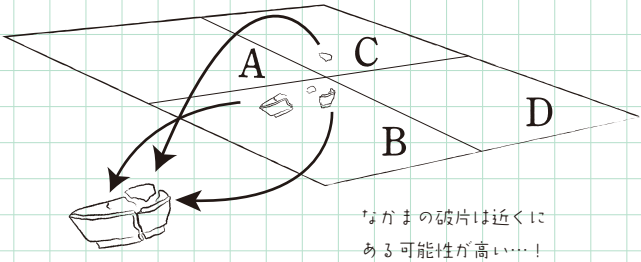


みんなが履いている靴は、
買ったばかりの頃と比べて、どう変わっている？
自分の靴に残された使いこみの痕も参考に、
考えてみよう！

土器のカタチと使い方

発掘で見つかる土器のほとんどは破片です。
バラバラの破片は、くっつけていきましょう！

同じ地区から見つかった破片は
くっつく可能性が高いです。
色や、厚さ、作り方の痕を頼りに
破片をくっつけていきます。

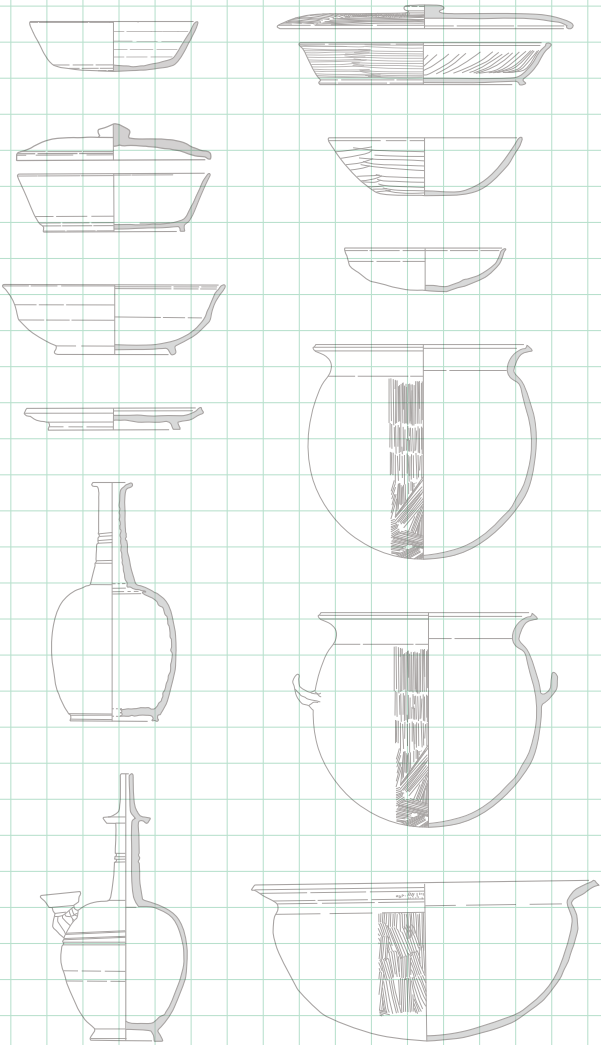


もうくっつく破片がない、となったら
石膏を入れて元の形を復元します。

破片がくっつくと土器の本来の姿が見えてきます。
元の姿を取り戻した土器たちは、
どんなカタチをしているかな？

展示されている土器はどれかな？

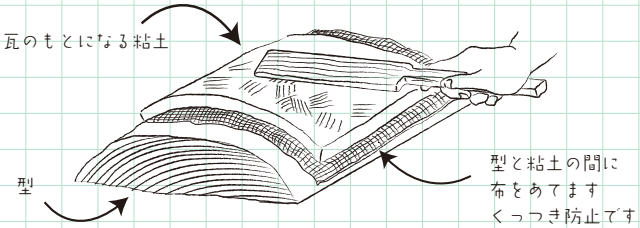
みつけた土器をなぞろう！
似た土器もたくさんあるから、よ〜く観察！



色々なカタチがあるね
それぞれ何に使ったんだろう？

瓦の作り方

瓦はどのように作られたのでしょうか？
瓦の種類には色々ありますが、
どれも型に粘土を当てて、型押しの方法で作りました。



型は木でできています。
粘土は叩いてから焼くことで、
ギュッとしまった瓦になりました。

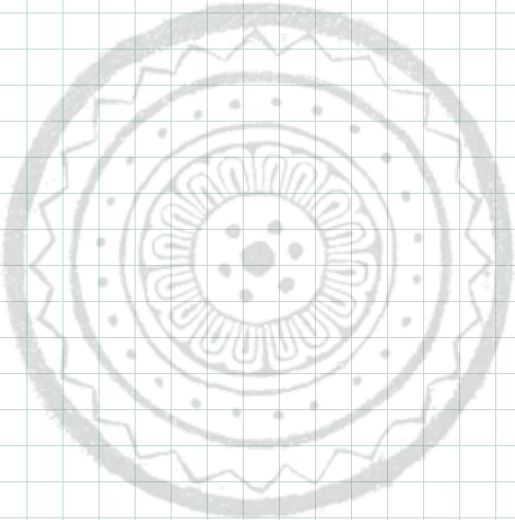
文様のある軒先の瓦は、
文様を彫った木型に粘土を押し当てて作ります。
ただ、何度も何度も使われるうち、木型もすり減り、
割れ、くたびれてきます。

だから！

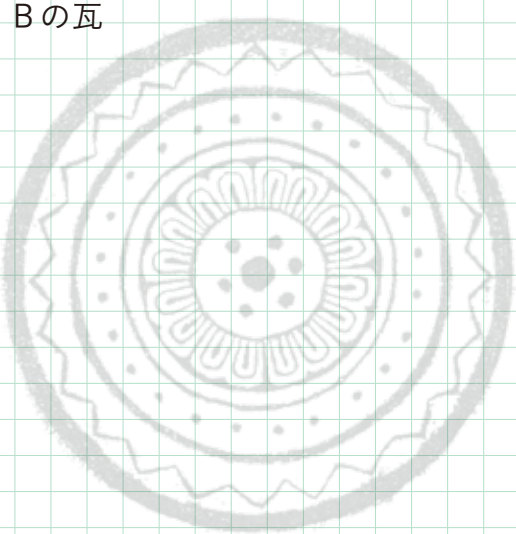
同じ文様でも、文様の変化を追うことで、
瓦同士、どちらが古くてどちらが新しいのかを
知ることができるんです。

それぞれの瓦（かわら）の見えている文様の部分をなぞろう！

Aの瓦



Bの瓦

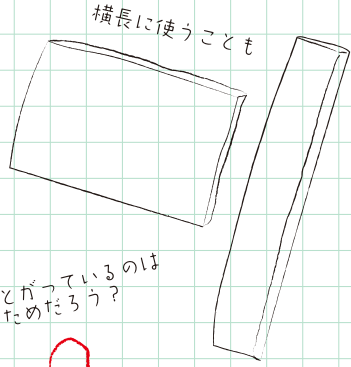


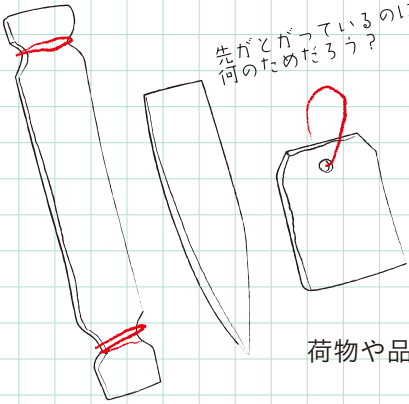
どちらの瓦が先に作られたか分かるかな？？

木簡の使い方と内容

木簡には色々な使い方がありました。

文書や帳簿として
使われたり





荷物や品物に付けたり……

お手紙なら差出人や宛先が、
荷札なら荷物の品名や量が書かれたことでしょう。

たとえ折れてしまっていても、
形や少しだけ読める内容から、
その木簡の役割や内容の全体を想像することができます。

限られた手がかりから
木簡の元の姿を考えてみよう！

くっつけた姿を書き加えよう！

段になっているのは
何でだろう？

「長鮑」は細長く
かつらむきにして
干したアワビ
のことだよ

カタチと内容から、
どのように使われた木簡と考えられるかな？

遺構を読み解く

古代の建物は、柱の立て方によって
大きく２つに分けられます。
礎石建物と、掘立柱建物です。

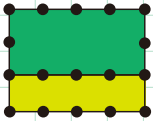
礎石建物は礎石という
大きな石の上に
柱を立てました。

掘立柱建物は、
地面に穴を掘って、
柱の根本を埋めました。

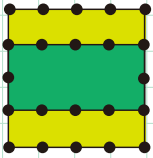
写真は、引越しのために柱を
引き抜いているところだよ

また、古代の建物の多くは、長方形が基本です。
さらにその外側に、廂をつけて
室内を広くすることもありました。

無廂



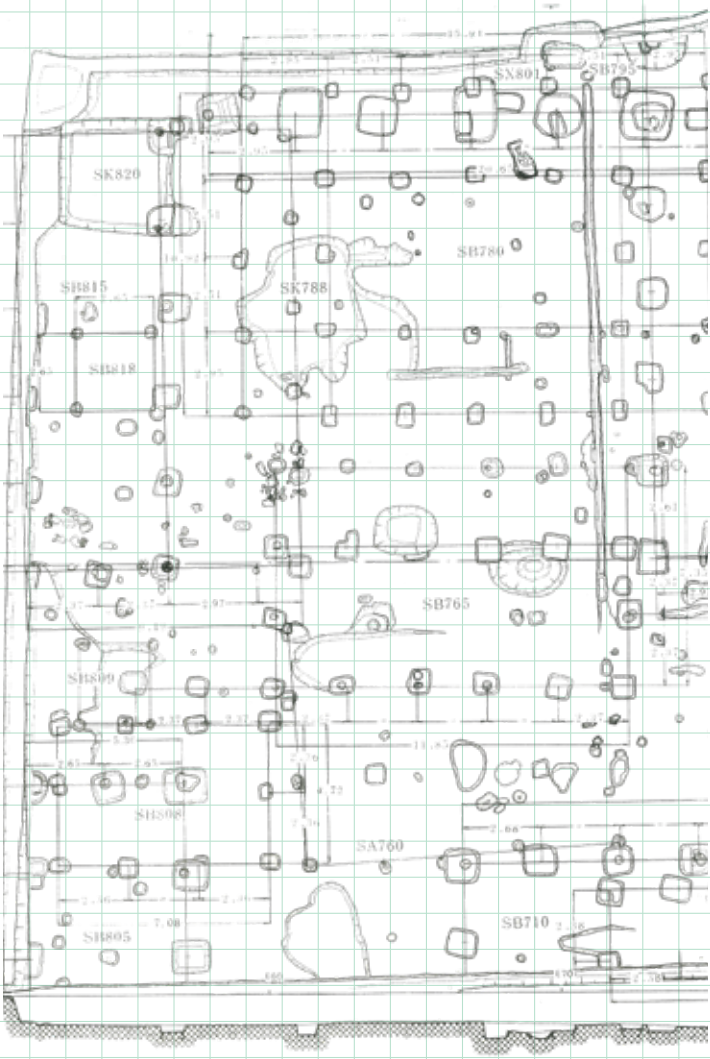
片廂



二面廂

ひとつの建物の柱は同規模になることが多いので、
同じようなカタチと大きさで、
一列に並んだ柱を据えた穴（柱穴）をつなげると、
どんな建物が建っていたのかを、知ることができます。

柱穴をつなげて
奈良時代の建物をみつけよう！
いくつあるかな？



内裏北外郭官衙（部分）

まっすぐに並んだ、同じようなカタチと大きさの
柱穴をつなげていこう！

平成 30 年度 平城宮跡資料館 夏のこども展示
『たいけん！なぶんけん』
発行日　2018 年 7 月 21 日
発行　独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市佐紀町 247-1（仮設庁舎）
https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/
企画編集　奈良文化財研究所
企画調整部　展示企画室
印刷　能登印刷株式会社